

令和 5 年度
(2023 年度)

自己点検・評価報告書

令和 5 年(2023 年) 4 月 1 日から
令和 6 年(2024 年) 3 月 31 日まで

令和 6 年(2024 年) 5 月 1 日

学校法人吉田学園
北海道スポーツ専門学校

■令和5年度 自己点検・評価について

〈説明〉

本校が、教育研究水準の向上や活性化に努めるとともに、その社会的責任を果たしていくため、校訓や学校の目標と教育の実態とを照らし合わせ、自らの教育研究活動等の状況について自己点検し、現状を正確に把握・認識した上で、その結果を踏まえ、優れている点や改善を要する点など自己評価を行いました。

1. 対象期間

令和5年4月1日～令和6年3月31日

2. 委員会開催

第1回 令和6年5月1日(水)

3. 実施方法

(1) 実施組織: 自己点検・評価委員会

委員長:	滝本 玲	北海道スポーツ専門学校 校長
委員:	齋藤 敬男	北海道スポーツ専門学校 学科長
	藤田 真	北海道スポーツ専門学校 iB 事業部副部長
	今北 雄太	北海道スポーツ専門学校 副学科長
	千保 大聖	北海道スポーツ専門学校 主任

(2) 評価基準: 文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」に準拠しています。

(3) 評価方法: 学則、教務内規、学習のしおりや学生便覧に記載されている校訓や指導規定などと照らして各種評価を行い、自己点検・評価委員会を開催し、学校として自己点検・評価を取り纏めています。

4. 評価項目

- (1) 教育理念・目標
- (2) 学校運営
- (3) 教育活動
- (4) 学修成果
- (5) 学生支援
- (6) 教育環境
- (7) 学生の受け入れ募集
- (8) 財務
- (9) 法令等の遵守
- (10) 社会貢献・地域貢献
- (11) 国際交流

5. 評価項目に対する評価

(1) 4段階で点数評価しました。

4: 適切 3: ほぼ適切 2: やや不適切 1: 不適切

(2) それぞれの評価項目のうち評価3以下のものについての状況と課題、対策について報告いたします。

1 学校の教育目標

自立・実践 ～主体性ある学びができる人材の育成～

(以下、「学生便覧」より抜粋)

専門学校は社会人としての心構え、知識、スキル、マナーを学び、社会に出て即戦力となる人材を育成する場です。学校生活がその実践の場であるとの認識をもち、学生としての甘えを捨て、ひたすら自分の将来像に向かうことに集中しましょう。

そのために、出来るだけ他人(親や先生等)に頼ることなく、自らの意思で行動できる学生として、学校生活を送ってほしいと思います。例えば、

- 他人から言われて“学習や検定”に取り組むのではなく・・・
- 他人から言われて“挨拶やマナー”を身につけるのではなく・・・
- 他人から言われて“就職活動”(面接練習や就職先の研究等)に取り組むのではなく・・・

「何事にも自立の精神をもって実践し、複雑な人間関係や組織等、時代の変化が激しい社会に果敢に立ち向うことが出来る人間に育ってほしい」との願いから、学校目標を“自立・実践”としました。皆さんが自分の夢に一步步つ前進出来るような行動、頑張り、成長を期待しています。

※教育の三本柱 「 就職 ・ 資格取得 ・ 部活動 」

2 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

1 入学者数の増加

学校で取り込まれる全てが募集活動に関係することであることを理解し、全職員が協力体制で臨む。

2 在籍率の向上

学生指導の更なる充実を図り、学生との密接な係わり合いやモチベーション継続支援を強化する。

3 高い就職率

吉田学園グループ内で確立されている「専門学校グループ 教育基軸(就職支援)」を活用し、学内企業説明会や模擬面接の実施など様々な手法や考え方で段階的なアプローチを行う。

4 資格取得率の向上

対策の強化を図り、同時に資格へのモチベーションを維持・向上させながら、計画的かつ組織的に取り組む。

5 部活動の充実と発展

部活動を通した人間形成及び、在校生の満足度を上げるための部活動運営に取り組む。

6 附帯教育施設(スポーツプラザ iB)運営

安心、安全、快適な施設運営による会員・スクール生の満足度向上を図るとともに、学生授業やインターンシップを含めた学びのアウトプットの場として一層の活用を図る。

3 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評 価 項 目		適 切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不 適 切…1
(1)-1	学校の理念・目的・育成する人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
(1)-2	学校における職業教育の特色は何か	4
(1)-3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
(1)-4	学校の理念・目的・育成する人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4
(1)-5	学校の教育目標、育成する人材像は、学校に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

(1)-3

日々変化する業界ニーズと社会的背景等に対応すべく、学校の将来構想を適宜、具体的なものとして明確に打ち出し、共有・周知する。

② 今後の改善方策

(1)-3

新たな「短期学校計画」を年度ごとに策定し、学校の特色や社会(業界)ニーズ等を見据えた学校の将来構想および安定した学校経営・学校運営のために必要な見直しやブラッシュアップ等を継続する。

③ 特記事項

特になし

(2) 学校運営

評 価 項 目	適 切…4 ほ ぼ 適 切…3 やや不適切…2 不 適 切…1
(2)-1 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
(2)-2 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
(2)-3 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
(2)-4 人事、給与に関する規程等は整備されているか	4
(2)-5 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
(2)-6 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
(2)-7 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
(2)-8 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

(3)教育活動

評 価 項 目		適 切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不 適 切…1
(3)-1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
(3)-2	教育理念、育成する人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
(3)-3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
(3)-4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
(3)-5	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
(3)-6	関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
(3)-7	授業評価の実施・評価体制はあるか	4
(3)-8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
(3)-9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
(3)-10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
(3)-11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
(3)-12	関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	3
(3)-13	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
(3)-14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

(3)-10 (3)-12

体系的に整備されたカリキュラムをベースに、特に資格取得に係る指導体制(担当教員の授業スキルアップ・教育力強化に繋がる関連分野における研修等の実施・参加、組織的管理等)の確立が必要となる。その中でも、資格取得率向上が最優先の課題である。

② 今後の改善方策

(3)-10

吉田学園グループ内で確立されている「専門学校グループ 教育基軸(授業運営)」やグループ校の実践的知見の活用を推進し、特に資格関連科目の授業スキルと指導力の強化を図り、管理者を交え計画的かつ組織的な取り組みをする。

また、資格取得において学生のモチベーション維持を目的としたグループワークの活用や段階的な達成型授業の実践を図る。

(3)-12

アスレティックトレーナー専任教員の確保が課題となっており、充足を図りたい。

③ 特記事項

(3)-14

各種研修会(オンラインセミナー等)を活用したり学校独自の研修会等を開催したりしながら自己研鑽の機会を提供できてはいるものの、それが十分に実践されるに至っていないため、今後はその為の支援や働きかけを実施する。

(4) 学修成果

評 価 項 目	適 切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不 適 切…1
(4)-1 就職率の向上が図られているか	4
(4)-2 資格取得率の向上が図られているか	2
(4)-3 退学率の低減が図られているか	3
(4)-4 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
(4)-5 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

① 課題

(4)-2

担当教員が中心となり合格率向上に向けた具体策を実施してきたが、アスレティックトレーナー、健康運動指導士などの主要資格については目標値には及ばなかった。JATIトレーニング指導者など、他の資格についても安定的な合格率を維持できていない。

(4)-3

昨年度から大きく改善が図られ、ほぼ目標を達成した。学生の出席状況含めた学習状況や様子の変化について、早期に把握ができるよう組織的な管理体制の構築に努めていく。

② 今後の改善方策

(4)-2

資格取得へのモチベーション向上、資格取得の必要性を認識できるよう、段階的な達成型授業の構築を行う。また、グループワークを用いクラス全体で資格取得に向かう環境づくりを行い、組織的かつ計画的な取り組みにより学生を資格取得まで牽引していく。また、「学内模擬試験を充実させ時期による習熟度の把握・段階的指導」、「補講実施」、「専門学校グループ 教育基軸(授業運営)やそれに付随する各種研修会・勉強会による授業スキル、指導力の強化」、「管理者を交えた到達度合いの確認や修正見直し」等の取り組みを図る。

(4)-3

当該クラス担任から管理職までの段階的な指導継続を意識し、学生の早期変化に気付き対応できるよう努める。「専門学校グループ 教育基軸(学生指導)」の理解を深めその活用が図られるよう組織的な管理体制の改善に努めていく。

③ 特記事項

特になし

(5) 学生支援

評 価 項 目		適 切…4 ほ ぼ 適 切…3 や や 不 適 切…2 不 適 切…1
(5)-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
(5)-2	学生相談に関する体制は整備されているか	4
(5)-3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
(5)-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
(5)-5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
(5)-6	学生の生活環境への支援は行われているか	4
(5)-7	保護者と適切に連携しているか	4
(5)-8	卒業生への支援体制はあるか	3
(5)-9	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
(5)-10	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

(5)-8

卒業生から、相談、問合せがあった際には、可能な範囲で対応している程度にとどまっている。

② 今後の改善方策

(5)-8

今後も相談、問合せに対しては、最大限の情報提供にて継続対応する。

③ 特記事項

特になし

(6)教育環境

評 価 項 目	適 切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不 適 切…1
(6)-1 施設・設備・図書は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
(6)-2 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
(6)-3 防災に対する体制は整備されているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

(7)学生の受入れ募集

評 価 項 目	適 切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不 適 切…1
(7)-1 学生募集活動は、適正に行われているか	3
(7)-2 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
(7)-3 納付金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

(7)-1

オープンキャンパス参加者からの出願率の向上は図られたものの、定員確保には至らなかった。学校活動全体が学生募集を意識した活動となるよう継続的に取り組む必要がある。

(7)-2

資格取得率等、教育成果としては不十分であり改善が求められる。

② 今後の改善方策

(7)-1 (7)-2

学校で取組まれる全てが学生募集活動であることを理解し、「あらゆる教育活動(資格取得率等)における結果の追究」「オープンキャンパス参加者の満足度向上(高い出願率)」、「高校部活動(顧問)との接点強化」、「産業界との連携のPR」等、全職員が協力体制で臨む。また、より多くの魅力が発信できるオープンキャンパスの在り方を継続検討していく。

③ 特記事項

引き続き、定員充足を意識して、より計画性を持って業務に当たることが必須である。

(8)財務

評 価 項 目	適 切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不 適 切…1
(8)-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	2
(8)-2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	2
(8)-3 財務について会計監査が適正に行われている	4
(8)-4 財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

(8)-1

近年は定員確保に至っておらず、財務基盤の安定が図れていない。

(8)-2

予算・収支計画については、有効性や妥当性をより慎重に判断しながら学校運営を進めていく。

② 今後の改善方策

(8)-1 (8)-2

選ばれる学校づくりのため、学校の魅力付け・教育力の向上に注力し、募集活動の強化に繋げることで定員充足率を上げる。また、退学率の低減についても改善を行うことで在籍率を向上し、授業料収入の確保に努める

③ 特記事項

特になし

(9) 法令等の遵守

評 価 項 目	適 切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不 適 切…1
(9)-1 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
(9)-2 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
(9)-3 自己点検・評価の実施と問題点の改善を行っているか	3
(9)-4 自己点検・評価結果を公開しているか	4

① 課題

(9)-3

問題点の改善が図られ結果に繋がりつつあるものの、改善が不十分な点もあり、継続的な取り組みが必要である。

② 今後の改善方策

(9)-3

教職員に共有し、委員会の場合以外でも確認や検討の場を設け、定期的な PDCA サイクルを実践する

③ 特記事項

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

評 価 項 目	適 切…4 ほ ぼ 適 切…3 やや不適切…2 不 適 切…1
(10)-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
(10)-2 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
(10)-3 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題
特になし

② 今後の改善方策
特になし

③ 特記事項
特になし

(11)国際交流(令和5年度の留学生在籍なし)

評 価 項 目	適 切…4 ほ ぼ 適 切…3 やや不適切…2 不 適 切…1
(11)-1 留学生の受入れについて戦略を持って行っているか	4
(11)-2 留学生の受入れ、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4
(11)-3 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4
(11)-4 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4

① 課題
特になし

② 今後の改善方策
特になし

③ 特記事項
国内の生産年齢人口が今後ますます減少していくことを鑑み、積極的な留学生支援を行うことでスポーツ業界はもちろん日本経済に貢献していけるよう取り組んでいきたい。

総 括

「1 入学者」については、学校で取り組まれる全てが学生募集活動であることを理解し、全職員が協力体制で臨むことで、オープンキャンパスからの出願率を大きく向上することができた。定員充足に向け引き続き改善をしながら組織的に取り組んでいく。

「2 在籍率」については、昨年度から大きく改善を図ることができた。当該クラス担任から管理職までの段階的な指導継続を意識し、学生の変化に早期に気付き対応できるよう努める。また学生のモチベーション維持のためのタイムリーな対策を打ち、併せて「専門学校グループ 教育基軸(学生指導)」の理解を深めその活用が図れる組織体制を構築していきたい。

「3 就職率」については、専門就職率の更なる向上が図られ、目標達成した。「専門学校グループ 教育基軸(就職支援)」の活用を促進しながら、「担当者間の活発な情報交換と共有」、「学内合同企業説明会の充実」等はもちろんのこと、組織的、段階的なアプローチとサポート強化を継続していく。

「4 資格取得率」については、担当教員が中心となり合格率向上に向けた具体策を実施してきたが、合格目標値には及ばず本校の課題となっている。今後は段階的な達成型授業とグループワークを有効活用しながら、クラス・学校全体で資格取得に向かう環境づくりを実施し、計画的かつ組織的な取り組みにより学生を資格取得まで牽引していきたい。

「5 部活動」については、コロナ禍が明け、多くの競技で全国大会や予選大会等が実施された。野球部が全国大会 2 連覇を達成し、男子バドミントン部シングルスは全国ベスト 4 の成績を収めた。今後は学校としての基本姿勢を明示し、各部における横の繋がりや高校(部活動顧問)との繋がりを強化するとともに、学生や保護者の満足度を高められるよう計画的に活動していかなければならない。

「6 附帯教育施設(スポーツプラザ iB)運営」については、一般会員数については横ばいで推移しており、事故等なく安全な運営ができています。また、学生の学習成果のアウトプットの場として活用することで、学生にとって有意義な経験や学びになる事はもちろん、会員様の満足度にも良い効果が見られた。引き続き教育実践の場として有効活用しながら、より充実した施設となるよう取り組んでいきたい。